

ときめき人

Tokimeki bito



自然の声を聞き 子どもたちに 豊かな未来を

豊里町横町

平井 和也さん

ひらい かずや
1963年生まれ

Profile

大阪府大阪市生まれ。大学進学を機に上京し、会社員として働いた後、海の自然史研究所を設立。南三陸・海のビジターセンター長と石巻・川のビジターセンター長を経て現在に至る。本市では登米市環境教育リーダーとしても活動している。



今年、伊豆沼で開催した子どもキャンプ。環境学習だけでなく人間性や協調性の育成にもつながっている。

「このままだと、子どもたちにはごみを拾い続けないといけない未来が待っている」。そう警鐘を鳴らすのは、NPO法人海の自然史研究所登米クラブハウスで親子向けの自然体験と環境学習を企画・運営する平井さん。

自然体験・環境学習を始める大きな転機となったのは、1998年に沖縄県で発生したサンゴの大規模白化を目の当たりにしたことだった。「何かおかしいことが起きている」と感じ、当時勤めていた会社を辞めて翌99年に沖縄県に移住。海の自然史研究所を設立し、海の保全活動を始めた。その後、東日本大震災の復興支援のため、2013年に登米市に移住。昨年4月に「長年住んでいる登米市のために何かできることはないか」と考え、登米クラブ

ハウスを開所し、市内での活動を本格化させた。

平井さんが大切にしているのは、「楽しかった」で終わるのではなく、子どもたち自身が考え、気付き、答えを言葉にすること。「自分たちで考えて答えが分かったときは、目の輝きが本当に違うんです。その瞬間を見ることが活動の原動力になってます」と、子どもたちの成長に目を細める。

「私は、1999年から海岸清掃の活動を続けていますが、今も25年前とごみの状況は変わっていません。子どもたちのために未来の環境を今より少しでも良くしたいと思って活動しています。今後は、このクラブハウスを子どもたちに開放して学びの場にしたいと考えています。手探りですけどね」。平井さんの未来への挑戦が幕を開けた。

編集後記

▼取材を通して、読み聞かせの時間の大切さを改めて感じました。子どもが小さかった頃を思い出して、10年以上前に何度も読んだ『だるまさん』シリーズの絵本を久しぶりに手に取りました。子どもに見せると、「懐かしい！」と一言。あの時間は、ちゃんと心に残っています。ありがとうございます。(森田)

▼祭りの季節ですが、長引いた梅雨の影響もあってか、荒天の週末が多かった気がします。祭りの裏側では多くの人が何カ月も前から準備を重ねています。そんな皆さんの思いが実を結び、これからの祭りも盛会のうちに終わることを願います。(添田)

▼ときめき人で取材した平井さんの「子どもたちにゴミ拾いをさせない未来を」という思いに胸を打たれました。私も子どもたちの未来のために、自分にできることから始めてみようと思います。夏休みの宿題をため込んでいた私にとって、継続できるか不安しかありません。(高橋)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>

